

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070200894		
法人名	医療法人 翠山会		
事業所名	介護老人保健施設すいざん荘 グループホームぬくもり		
所在地	長崎県佐世保市赤崎町74-2		
自己評価作成日	令和 6 年 月 日	評価結果市町村受理日	令和7年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 7年 2月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体は医療法人であり、医療、福祉と連携体制を確立しています。、利用者様とのコミュニケーションを大切に基本理念に基づき支援を行っています。季節の行事を大切に、旬の食材を取り入れ 個々のニーズに合わせた支援を行っています。利用者様の笑顔を引き出せるよう職員全員で介護の共有を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者や家族の意見を真摯に受け止め、法人全体で支援の向上に取り組んでいる。5項目からなる法人理念とは別に、事業所理念“やささと 笑顔あふれる ぬくもり家族”の具現化に努めている。職員は利用者がリビングに集いやすい環境を整え、積極的な声掛けを行っている。また、利用者の得意分野を活かし、折り紙の発表の場や生け花の実演を支援することで、意欲を引き出している。介護計画では、利用者が無理のない範囲で自立した生活を目標に掲げている。日々の支援の積み重ねによって会話が増えたり、体力が向上することで本人の喜びや自信に繋がり、職員への信頼感も深まっている。職員は介護の基本を重視し、職員同士の風通しの良い関係性を築いている。フレキシブルに業務を見直しながら、本人本位の支援に取り組み、安心感を与えられるケアを実現している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、サブ理念を毎日見える場所に掲示しており、職員は、日頃から理念を意識した上で職務に当たっている。	5項目からなる法人理念とは別に、事業所としての姿勢を理念の“やさしさと 笑顔あふれる ぬくもり家族”に込めて職員間で共有している。職員は、一人ひとりの利用者に目を配り、孤立せずに輪の中に入れるように声掛けするなど工夫し、理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材調達は地域商店を利用し、店主の民生委員さんとはほぼ毎日交流を行っています。近隣の方々とは挨拶を交わし日常的に交流を持つようになっています。	事業所は、食材調達など地元の商店を利用している。また職員は、民生委員や近所付き合いから、地域情報を得たり、馴染みの関係を築いている。コロナ禍以降法人の方針として、利用者の安全確保を優先し外部との接触を極力避けるために、現在は、地域との交流は中断しているが、感染収束後には再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室を母体が行っているので必要な物(手作りのゲーム等)の作成を行って支援しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回会議を行っており委員の皆様からの意見を伺い、議事録を作成しサービスの向上に活かしている。又全てのご家族様へ議事録を送り意見を頂けるように、ご意見書を同封している。	会議は利用者家族、民生委員、包括センター職員等で構成され、2ヶ月に1度開催している。行事の報告、職員配置や内外研修の受講状況、苦情や事故発生等を説明し、参加メンバーとの意見交換が盛んである。議事録は、家族に送付し、内容を共有する工夫を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、包括支援センターに運営推進会議・議事録にて支援状況の報告をしている。又、疑問点等相談、質問をFAXで行いFAXで回答頂きました。	運営推進会議議事録を市担当課に郵送して状況を報告している。また運営に関する質問や疑問点などを市担当課とFAXなどでやり取りする双方向の体制を築いている。市主催の研修はオンラインで受講し、内容は全職員で情報共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を3カ月毎に開催し、全職員で勉強を行い利用者の尊厳を大切にしながら身体拘束をしない支援に取り組んでいる。運営推進会議にて報告を行っている。	事業所は、身体拘束等適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、全職員が利用者の尊厳を大切にしながら身体拘束をしない支援に取り組んでいる。また令和6年度は3月と11月に職員に対し身体拘束・虐待防止の研修を行い、スピーチロックについても周知徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止検討委員会を3カ月毎に開催し、認知症の理解、職員のストレス対策、法制度等の研修に参加し、全職員で共有を行っています。運営推進会議にて報告を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の勉強会を行い全職員で法的に支援する制度の理解を深めている。現在は必要な利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に重要事項説明書・契約書をご利用者に確認しながら説明を行っている。生活状況や発生されると思われる事柄や対応を事前に話し合い納得して頂いてから契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望等は日々の生活支援の中で「気づき」として毎日職員が記入し共有し対応、反映させている。苦情申し立て体制や意見箱の設置等、ご家族様、ご利用者様に説明を行い掲示している。ご家族の訪問時には意見や要望がないか聞くようにしている。	入居開始時に、苦情申し立ての体制を説明している。職員は、家族の面会や電話の時や運営推進会議の返信などで、要望などを尋ねている。利用者や家族の意見や要望は、書式化し母体法人全体で回覧し、サービスの向上に活かしており、玄関での面談場所の環境整備、利用者の食事などに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のグループホーム会議で職員の意見を聞き、問題があれば主任会にて発表を行い対応を行っている。	職員は、毎月のグループホーム会議や全体会議、毎日の申し送り時、意見や提案している。管理者は、職員の提案を受けて、希望休やシフト調整、物品購入などを行っている。改修中の業務は職員の意見を活かし、常に見直しを重ねながら、利用者が満足できる支援に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回介護自己評価を行い、自分を理解し努力向上につなげ役割が理解出来るようにしている。資格取得の際の研修費負担など向上心を持って働けるように支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりに合った研修に参加してスキルアップに努め自己の技術を向上し意欲的に仕事出来るようにしえんを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の主催する会合や研修などを通じて同業者との交流があり、そこで学んだ事を持ち帰り職員と意見の交換を行いサービスの質の向上に役立っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い、本人の考えをお聴きし情報を収集し、職員間で共有している。ご本人様の意向やご家族様の意向をできる限り実現していけるよう周知し取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの状況や不安な思い要望等をご家族様の立場に立ってしっかりと聴き、今後の対応を話し合いながら進めるように、心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の思いを確認し安心して利用が出来るよう 今、何を必要としているのかを見極めて支援・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でご利用者様が経験した事、聞いた事など生活の知恵を学び共に過ごし支え合っていると考える関係を築けるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡、報告を密に行い、事業所で出来る事、ご家族様が出来る事を共に検討し、ご本人様を支えていく関係を築いていけるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方の訪問等がある際には、ビニールカーテン越しにて椅子を用意しゆっくり話して頂けるよう配慮を行っている。馴染みの方への電話希望の方、行きつけの美容室、床屋の希望の方がいらっしゃれば支援に努めている。	利用者・家族との面談を通じて馴染みに関する情報を得ており、職員間で情報を共有している。家族や知人の面会は、感染症対策のため玄関に設置したブースで対応している。外出を控えているため、室内で楽しめるよう環境整備に努めている。職歴や得意分野を活かした日中活動を取り入れ、繋がりが途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動、洗濯物量み等を一緒にしていただくなど、利用者同士が関われる環境を多く見つけ支え合える生活が送れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も面会や電話で状況を聞いたり必要に応じて相談やアドバイスをを行い支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や様子、表情等から知り得たことや関わりの中で、気づいたことなど職員間で共有し、意向に沿った、暮らしに繋がるよう思いの把握に向け検討している。	職員は、利用者に寄り添いながら、笑顔を引き出すような声掛けを行っている。利用者の表情や態度からも思いを汲み取り、本人本位の支援に反映している。職員は業務日誌や気づきノートを活用し、情報共有を行っている。利用者の自立を促す居室での過ごし方や安全な車いすの誘導方法など、本人の思いや意向を反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は、ご利用者様の生活歴を確認し、日頃の会話の中で得た情報を記録に残し、共有を行いご家族様の訪問時等に、聞き取りを行うなど、これまでの生活の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録に残し必要時カンファレンスを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様に希望、意見を聞き、職員全員でカンファレンスを開き、意見を出し合い、ご本人様の現状に合った、介護計画を作成している。	本人、家族の希望を聞き、全職員でカンファレンスして、意見・意向を反映しながら介護計画を作成している。基本的に1ヶ月に1回、ケアプランを見直ししており、利用者の状況に応じて迅速に対応する場合もある。本人と意思疎通できるように工夫し、確認して同意を得て、支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの短期目標は毎日、モニタリングを行い記録している。職員は、細かい変化などを伝達して共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状況により可能な限り、病院受診、買い物支援などニーズに対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容室さんに依頼し、来て頂き、髪カット時に近辺の様子を聞かれたり、おしゃれの話をしてたりされ楽しい時間を過ごされました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に協力医の説明を行い、かかりつけ医を継続するかを選択してもらっている。専門家受診は、ご家族様が同行されている。結果等の報告を受け、共有している。母体法人医にご利用者様の体調を報告、往診、夜間緊急時の医療連携を行っている。	かかりつけ医の継続が可能であることを伝え、利用者が適切な医療を受けられるよう配慮している。協力医の往診があり、職員は往診表で利用者の変化を伝え、指示を受けている。協力医以外の眼科、皮膚科などの受診については、状況に応じて職員が車両で送迎している。24時間医療連携もあり、医療体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師に日々の心身状態や情報を伝え、指示を受け、ご利用者様が適切な医療を受けられるように、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、医療関係者と密に連絡を行い、状態を把握している。ご本人様、ご家族様の相談に応じて退院後の希望、要望をお聞きしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全職員が事業所の看取りに関する指針を共通理解する為の勉強会を行い、事業所で出来る看取り体制を示し職員間で共有し看取りの際、本人や家族の意思確認をしっかりと取れるようにする。	協力医療機関との医療連携により、重度化や終末期に向けて体制を整えている。入居前に重要事項説明書の中で事前に「重度化した場合における対応に関わる指針」「看取りに関する方針」を基に説明して同意書に得ている。ただし、終末期・看取りに関して、段階に応じた書面が確認できない。	実際の終末期・看取りについて、事業所が行う支援、家族の意向確認など、契約時から看取り支援時までの段階に応じた書面の整備に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会、勉強会に参加し、AEDの取り扱い、緊急時マニュアルに沿った訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎日点検を行い自主点検表の項目にチェックを行っている。母体と協力して訓練を実施している。災害用持ち出し物品、災害用備品、水、食料品の管理を行い災害の危険がある日は、夜勤者と管理者の2名体制にて対応している。	事業所はハザードマップで崖崩れ地域に位置しており、同法人施設すいざん荘等への避難を想定している。非常食は3日分常備し、持ち出しが可能な状態に整えている。事業所はBCPを作成しており、訓練でも持ち出せるように準備している。ただし、消防署の立会いが近年行われていない。また、日中想定の実践を行っていない。	現在の火災訓練は、夜間想定のパターンが多いため、職員の数が多い日中の避難訓練の実施が待たれる。合わせて、消防署の立会の訓練実施も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格や性格、認知症の症状の違いを理解し、認知症があっても、周りとの関わり方を考え、その人を尊重し、今出来る事を見つかるように努めている。日常の言葉遣いも馴れ馴れしくならないように留意し、敬語チェック表がある。	職員は利用者の尊厳を大切に、毎日敬語チェック表を記し自ら支援を振り返っている。信頼関係を築く中で、馴れ合いにならないよう意識した支援を心掛けている。書類は棚で管理し、連絡ボードも目隠しするなど、個人情報の取り扱いにも細心の注意を払っている。写真使用の同意も得ており、職員も守秘義務を遵守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の近くで見守り、コミュニケーションを取り自分の思い、考えを言えるような信頼関係を築けるように日々努力している。自分で判断、決定が出来るような場面を提供する用心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調、気分に合わせて、ご本人様の思いに寄り添い個人のペースに配慮しながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択が出来る方は行って頂き、出来ない方は職員と一緒に選んで頂いている。季節に合った衣類の交換などご家族様にも協力してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れた献立を作成、ご利用者の状態に合わせた盛り付け 食器を使用し、食欲を促している。誕生日月のリクエストメニュー、行事食はご利用者様の楽しみになっている。	調理職員は、利用者の食事の進み具合や感想、嗜好をもとに、献立づくりを行っている。献立は、同法人グループホームと交代で作成している。咀嚼や嚥下に合わせて盛り付け、食欲増進に繋がっている。誕生日のリクエストメニューや季節行事メニュー、外注弁当など、みんなで食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔・栄養スクリーニングを実施し食事形態、量で食べやすいように工夫している。管理栄養士に質問やアドバイスをもらい健康管理に努めている。7時、10時、15時と食事時以外にも水分補給をして頂き、希望者にはふたつきコップ使用して夜間の水分補給をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛けを行い口腔ケアをして頂き、必要な方には介助を行い、義歯は毎夕、洗浄剤で消毒にて清潔を保っている。コップ、歯ブラシ、義歯入れも定期的に洗浄、消毒を行っている。歯科医師により口腔衛生管理助言を頂き、職員で共有して実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに応じて声掛け介助を行い排泄を基本とした支援をしている。失敗のある方には自尊心を傷つけないように配慮しながら交換している。必要に応じてポータブルトイレの設置を行っている。	職員は、利用者がトイレで座位による排泄ができるよう支援している。排泄パターン表があり、時間や仕草を見ながら声掛け、自分のペースで排泄できるよう配慮している。支援内容を検討することで、排泄の失敗の減少に繋がっている。また便秘にならず排便できるよう、日中のリハビリを増やすなどの工夫も取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取出来るように、食事以外にお茶、コーヒー等を提供し、食事量の記録、食物繊維の摂取量の確認を行い、毎日体操をするなど規則正しい生活が送れるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、週2回行っていきますが、希望があれば入浴を行っています。体調が悪い時、拒否された時は無理せず中止して更衣、清拭にて対応している。季節の菖蒲湯、柚子湯等も楽しまれています。	調査時、事業所は浴室の改修工事中であったため、週2回同法人他施設の入浴施設を借りて入浴を支援している。入浴拒否時は無理強いせず、清拭等で対応している。職員は、羞恥心に配慮し入浴介助を行っている。柚子湯や菖蒲湯を準備し、浴槽に浸かって、おしゃべりを楽しむなど、心地よい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて自由に部屋で休んで頂いている。日中は適度に活動を促して、生活のリズムを作ることで、夜間が安眠できるように、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理説明書はすぐに確認できる場所に置き、投薬時は必ず呼称し、薬と本人を確認して投与している。投約者は服薬チェック表に内服確認後サインを行っている。体調の変化時は主治医に報告、指示を受けている。服薬の変更時には、記録、伝達を行い全職員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味、得意な事を把握して、その方らしく過ごせるように役割が持てる場を提供できるようにしている。行事に参加され、気分転換が図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	同法人施設にお花見、花壇にて草むしり、苗植え、施設周辺での散歩、外気浴を行い気分転換をして頂いている。	現在、感染症予防のため、法人全体で外出を控えており、外出は病院受診となっている。法事などは、家族の協力の下、行っている。気分転換に玄関先で外気浴を行っている。プランターに花を植え、季節を楽しんでいる。桜の季節は、法人の庭にある桜を切って、リビングに飾り季節を楽しむ工夫を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があり、ご家族様の同意があればお金の所持、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を掛け意向に沿っている。手紙の代筆、代読も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な室温、照明にし、フローには、ご利用者様の手作りの作品や写真を飾り、季節の生け花をいけている。掃除は毎日行い換気管理を行っている。	リビングには利用者の書いた書を飾り、職員手作りの季節の作品をレイアウトしており、家庭的な温かい雰囲気が醸し出されている。畳の部屋は、利用者が使いやすいように洋風に改装し、椅子を配している。トイレや浴室、脱衣所は清潔を保持しており、職員は改装工事の中でも快適な共有空間となるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローには、テレビやテーブルと椅子があり自由に好きな場所でテレビを観たり、談笑されたり、新聞を読まれた 自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を持って来て頂き、出来るだけ落ち着けるように、ご家族様に協力して頂いています。ご本人の状態、希望によってベッド、タンスの位置の移動をして安全に使いやすいようにしている。職員は居室出入りの際には感染予防手指消毒を行っている。	1年前から改修工事を行っており、全ての居室にLEDライトを設置し、室内の壁紙なども新しくして模様替えしている。ポータブルトイレを使用している居室では、適宜洗浄しており、匂いもなく快適な環境である。自分や家族の写真を飾り、落ち着いて寛ぐ空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には手すりが設置してあり、安心、安全に心掛けている。日時が分かるようにカレンダーや時計を配置している。トイレ、風呂場等 表示を行い分かりやすくしている。		